



薬局だより

2024年10月

マイコプラズマ肺炎

最近、ニュースで「歩く肺炎」という言葉を耳にしませんか？正式名称は「マイコプラズマ肺炎」といいます。マイコプラズマ肺炎の患者数は過去10年で最多のペースで増えています。今回はこの病気についてご紹介していきます。

マイコプラズマ肺炎とは「マイコプラズマ」と呼ばれる細菌の一種によって引き起こされる肺炎のことです。小児や若い世代に比較的好く見られる肺炎であり、発症者の約8割は14歳以下であるとされています。



マイコプラズマ肺炎・免疫学 - Controllab

発生状況

生駒市に隣接する大阪府では1999年4月以降、基幹定点医療機関からの年間報告数が最も多かったのは2011年の1464例、次いで2016年の1101例、2006年の1068例となっています。2024年は第34週時点で690例と、300例を超えるのは2016年以来です（大阪府感染症情報センターより）。



近年、患者数が増加している理由としては、新型コロナウイルスの感染対策が緩和されたことで人々の行動が変わり、人と人との接触が増えたことが要因ではないか、と考えられています。生駒市は大阪府に近く、行き来する人も多いので十分注意が必要です。

症状

発熱や全身の倦怠感（だるさ）、頭痛、せきなどの症状がみられます。せきは熱が下がった後も長期にわたって（3~4週間）続くのが特徴で、マイコプラズマに感染した人の多くは気管支炎で済み、軽い症状が続きます（一般に、小児の方が軽症で済むと言われています）が、一部の人には肺炎となったり、重症化したりすることもあります。感染から発症までの潜伏期間が2週間から3週間と比較的長く、いつ感染したかわかりづらいうえ、症状が出て風邪だと思って出歩く患者も多いため、「歩く肺炎」とも呼ばれています。

治療

マイコプラズマ肺炎はマクロライド系などの抗菌薬で治療されますが、成人で肺炎を伴わない気管支炎であれば抗菌薬による治療を行わないことが推奨されています。しかし、マクロライド系抗菌薬が効かない「耐性菌」に感染した場合は他の抗菌薬で治療します。軽症で済む人が多いですが、重症化した場合には、入院して治療が行われます。せきが続くなどの症状がある時は、医療機関で診察を受けるようにしましょう。

予防方法

では、マイコプラズマ肺炎にかからないためには日常生活でどのようなことに気を付ければよいのでしょうか？

感染経路はせきのしぶき（飛沫）を吸い込んだり（飛沫感染）、感染者と接触したりすること（接触感染）だと言われています。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の広がりがみられます。そのため、普段から流水と石けんによる手洗いをすることが大切です。また、感染した場合は、家族間でもタオルの共用は避けましょう。せきの症状がある場合には、マスクを着用するなど“咳エチケット”を守ることを心がけましょう。

感染症対策

！ 新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

①手洗い 正しい手の洗い方

① 流水でよく手をゆわいた後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。
② 手の甲をのばすようにこすります。
③ 指先・指の間を念入りにこすります。
④ 指の間を洗います。
⑤ 親指と手のひらをねじり洗います。
⑥ 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で洗い、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

②咳エチケット 3つの咳エチケット

電車や職場、学校などが集まるところでやろう

マスクの正しい着用方法：
① マスクを鼻と口の両方を確実に覆う
② ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う
③ 袖で口・鼻を覆う

正しいマスクの着用：
① 鼻と口の両方を確実に覆う
② ゴムひもを耳にかける
③ 隙間がないよう鼻まで覆う

× 何もせずに咳やくしゃみをする
× 咳やくしゃみを手でおさえる

首相官邸 Prime Minister's Office of Japan
厚生労働省
■ 詳しい情報はこちら
厚労省 検索



2週間以上咳が続くときは、放っておいたりやみくもに市販薬を飲んだりせず、早めに呼吸器内科を受診して咳の原因を調べましょ

